

【8】防災に関すること

No	意見の概要	町の考え方
355	ラディアンイベント広場(兼駐車場)の東側道について。当該道は排水処理能力との関係で近年(3~4年前)でも足首位まで浸水したことがあるので、施設再編の際には排水処理能力を確保いただきたい。近年では局所的に大量の降水量となることが多いため、ご配慮いただきたい。二宮町が掲載している「洪水浸水想定区域図」でもこの周辺は浸水リスクが高く示されている。過去には平成2年頃に膝上まで浸水したことがある。また平成12年にもラディアン建設後にこの東側道は浸水したことがある。	担当課である都市整備課に伝え排水能力について確認するとともに、新庁舎整備の中で排水性について十分検討いたします。また、神奈川県へ葛川整備の早期実現を要望してまいります。
356	ラディアンイベント広場(兼駐車場)の東側道が浸水した場合は、新庁舎(北棟・南棟)に避難するしかない。新庁舎建設の際に、隣接地との境に塀を立てると思うが、逃げ道を確保して、完全に塞ぐことのないよう塀の設置をお願いする。またダブルレーナの住民の避難ルートの確保もお願いする。	浸水対策とともに、ご安心いただける様に外構整備の有り方について検討します。
357	災害時など、目指す方針と計画、特に土地利用や動線の計画が一致していない。現ラディアンと幾つかの住宅を挟む道は、今も、計画後も、防災機能的には全くの死に体。住宅地を買い取り、周辺計画に組み込むのなら、防災も機能的に動く。果樹公園の購入に3.3億もかけるなら、その予算で、もっと有効で合理的土地集約を検討すべきである。	都市計画および、建築の専門家の知見により今回の設計案を作成しており現在の計画で十分機能すると考えています。
358	災害時における予備電源も新施設のところは、葛川浸水区域(?)のようですので当然考慮されているとは思いますが、出来るだけ高い場所に配置するなど、災害時でも予備電源が活用できるように、ご検討ください。	新庁舎の建設地は洪水浸水想定区域ではありません。
359	浸水エリアを避け高台の果樹公園へ変更したが背後は土砂災害警戒区域であり土砂対策のために出費が発生。まったく効率的ではなく、それなら果樹公園取得、土砂災害対策の費用分を葛川治水対策に回して発務局横に立てるほうがよっぽど良い。	土砂災害対策のための新たな出費はありません。建設位置や構造的な工夫による対策です。なお、葛川整備については、引き続き県へ早期実現を要望してまいります。
360	役場の位置は山側にあり、津波避難としては現在の位置が有効である。災害対策としては、上記の通り一極集中では災害時に全滅の危険を伴う。災害対策に経費を注いでほしい。ハザードマップの見直し及び、津波避難所を設けるなどの見直しと開設が急務。	令和3年に改定したハザードマップには、津波浸水想定図を示しており、現庁舎・新庁舎建設予定地ともに浸水想定はありません。また、津波災害指定避難場所を指定するとともに、対象地区では毎年津波を想定した避難訓練を実施しています。
361	ラディアン周辺は安全ではない。ここはハザードマップにもあるように、浸水の危険がある地域であり、大雨があると不安です。そのような所に35億もの予算をかけて二宮町役場庁舎建設等をする必要があるのか疑問です。	新庁舎建設地である果樹公園は浸水想定区域ではありませんが、周辺においても1000年に1度の確率と言われている「想定最大規模」の自体が発生しても、2時間程度で解消することが分かっています。新庁舎建設により、周辺にお住まいの方にとっては一時的に避難が可能な安心の高まる場になります。
362	浸水が怖い。	【項番361】の通りです。
363	新庁舎建設中または完成後に自然災害が発生し、大きな被害を受ける可能性があります。新庁舎の防災機能が十分に発揮されず、災害時に迅速な対応が困難になるリスクがあります	耐震性が不足している現在の庁舎のまま、地震などの大規模災害が発生した場合、役場庁舎が使用不能になるなど、災害対応上の大きなリスクが生じることが想定されます。新庁舎建設により、町民の安全・安心が高まるためできるだけ早く計画を進めます。
364	町民の安全のため防災が大事と言うなら代替業務体制を確保している災害対策本部機能より、老朽著しいと悲鳴のある老朽した二宮小学校体育館の改修が急務である。	二宮小学校体育館は工事に必要な耐震性を確保しています。なお、二宮小学校体育館は、新たに駅前複合施設として整備する予定です。
365	町の予算を箱もの建設ではなく、葛川の防災に充ててください。当初候補となっていたラディアン裏の駐車場は、浸水区域に当たるため中止となったとのことですが、現在浸水想定区域に居住する町民がおり、それらの人々は簡単に移転することは不可能な状況です。役場を浸水区域を避けて建設するだけで良いのでしょうか。役場建設に膨大な予算を充てる一方で、温暖化によりこれから頻発するであろう災害への対応は手つかずのままでは町民は到底納得できません。貴重な町の財源を葛川の氾濫を防ぐための工事に充てるのが妥当です。	葛川は神奈川県が管理する河川のため、葛川整備については、引き続き県へ早期実現を要望してまいります。新庁舎建設により、周辺にお住まいの方にとっては一時的に避難が可能な安心の高まる場になると考えています。
366	"災害対応の拠点となる新庁舎"と有るが、ラディアン周辺の地形がどのような地殻変動により形成された地形なのかを考えたとき、災害対応どころか現在の庁舎よりも災害を受けやすい場所であると考えます。耐震や浸水対策に使う資金、県からの払い下げに要する費用は、山の麓に住まう元町、下町の住民への対策に回す方が良いのでは無いですか。また、能登災害を顧みれば、県と国からの助けは期待できない。自助による復興ができるような備えが必要だと思いが、それは今回の構想の中に有るのだろうか。関東大震災の時に二宮町で起こった地盤隆起等の地殻変動は再び起きると思われる。また、葛川周辺の小山群の現状は、そこに小規模の土石流や崩壊が起きることがないとは言えず、その時の葛川への影響まで考慮されているのだろうか。新庁舎着想時からかなりの時が過ぎ、最近の異常気象、天災の発生状況とそれに対する政府の対応、経済産業の状況が大きく様変わりしてしまった今、このまま計画を推し進めることは得策なのか。"環境に配慮した"と有るが、これだけの広さの施設を設けたときに東側に隣接する山や施設の下流域にかかる環境負荷についてはどのように対策されているのだろうか。また、現庁舎と駐車場の処置如何ではその下側の住宅地に無用な環境負荷がかかり、擁壁等では防ぎきれない事態が起こる可能性も否定できないと思うが如何だろうか。	基本設計(案)にお示ししているとおり、想定されるハザードには対策を講じています。新庁舎整備により周辺にお住まいの方にとって安心の高まる場になると考えています。
367	防災的観点から役場移設はしない方が良いのではないかと思います。	現在の役場庁舎は、災害時の拠点となる庁舎に必要な耐震性を有していません。また、機能面でも多くの課題を抱えているため、早期の庁舎整備が必要と考えています。
368	新庁舎の敷地は土砂災害特別警戒区域に隣接、ハザードマップ浸水エリアに隣接、液状化の可能性のある地域に近接している。このような条件は現庁舎の敷地にはなかったのではないかと。	「二宮町役場新庁舎建設基本構想」にお示ししているとおり町民の方の利便性、交通アクセス性を重視しています。液状化リスクについては、地盤調査の結果、地震時の液状化の可能性は低いことが分かっており、『e-かなマップ』においても「液状化対象外」とされています。
369	先日の移動町長室で町職員からの回答にあったように、過去のラディアンでのイベント開催に際し人流が集中した状況に於いて、富士見が丘から県道へ向かう一車線道路から、ラディアンの敷地に入る左折ポイントで入庫待ちの停車が発生し、石神台まで続く渋滞を誘発した事実を二宮町は把握しています。ラディアンと入口を共有する形で果樹公園跡地に防災拠点となる新庁舎を建設すれば、災害時の人流の殺到による同様以上の悪状況の発生は容易に想定され、これは災害時に限り県道側から敷地内への緊急車両専用の経路を設ける事で全く解決しません。上記の理由から、住民の安全を最優先に考えた上で、現在の予定地に防災拠点機能を備えた庁舎を建設するのであれば、隣接する道路の複線化が必須となりますが、二宮町はこの重大な問題点を認識しながらも解決策を講じる事なく建設計画が推し進められています。移動町長室の町による回答の中で二宮町は、人が集中した場合に隣接道路から敷地へのアクセスがパンクするのは仕方がない、との見解を示しましたが、これは災害時に住民の避難経路が寸断されても仕方がないという建設方針の表れであり、行政としてのリスク管理上にあってはならない致命的な危機意識の欠落です。今回の計画を一度撤回し、組織として防災の本質と住民の安全の在り方についての理解を深め、各段階でちゃんと民間意見に向き合いながら、誠意あるいちからの庁舎建設計画の再構築が為される事を強く求めると同時に、今回提示されている56億円の建設計画の全てに断固反対します。	災害時における庁舎の役割は災害対策本部として、復旧・復興の司令塔となることです。広域避難所は地震と風水害で変わりますが、それぞれの状況に応じて各地区に設置されるため、避難のためにラディアン周辺が混雑するとは考えていません。避難所について認知されていない町民の方が誤って庁舎に集合しないよう、広報紙や地区の自主防災訓練等で避難について周知していきます。
370	◇果樹公園に計画されている新庁舎が防災拠点として機能するとは思えません。 ①建設計画予定地は洪水浸水想定区域に囲まれ、葛川と田代川が合流し、浸水が度々起こっていた場所の隣接地。あえて危険な場所に設置する必要があるのでしょうか？ 地区との動的アクセスが困難になる危惧も生じます。	「二宮町役場庁舎整備手法調査報告書」によりラディアン周辺に庁舎を移転することとした後、町営第一駐車場については、洪水浸水想定区域であることから、例え様々な対策をとったとしても万が一のリスクが心配であり不適との声を受け、浸水リスクの無い果樹公園に変更しました。
371	②防災拠点となるためには、地区拠点の整備や耐震化補助などによる優先的建築物や重点的區域等の耐震化等の減災対策と避難場所、避難路の整備などの救援対策を並行して行い、住民の命を守ること、地区での予防対策が必要だと思いが。	町では「居住用木造建築物耐震改修工事補助事業」を実施し、民間住宅の耐震性向上を支援しています。徐々にですが耐震化率も上昇しています。地域集会所の耐震化も並行して進めているところです。
372	③計画予定地に防災拠点ができると、妙見、富士見地区からの交通が遮断される危惧が生じます。	【項番369】のとおりです。
373	災害に強い施設を作ることに最大限、財源を使っていたが、使用できる部分は手を加えつつ使用していただきたい。次世代に大きな借金を残したくありません。	安全安心な町づくりのため、計画に沿って進めてまいります。
374	災害リスクの問題。新庁舎の建設予定地が災害指定地域に該当することは非常に懸念されます。子供たちの安全を第一に考えると、災害リスクの高い地域に庁舎を建設することは避けるべきです。より安全な立地を検討するか、現庁舎の改修・補強を行うことが賢明です。	【項番370】のとおりです。なお、平成29年度の「二宮町役場庁舎整備手法調査報告書」により、現庁舎の耐震化は老朽化が著しく、新築同等の費用が見込まれることが分かっています。また、三角形に近い不整形の建物であり、耐震改修(プレースの設置)により、著しく利便性が低下することから、建物の使いやすさや残りの寿命などを考慮すると費用対効果に劣ることが分かっています。

No	意見の概要	町の考え方
375	<p>広域避難場所のラディアン花の丘公園のマンホールトイレはよさそうなアイデアと思います。当然ながら災害時に上物の設営が必要と思われ、資材の準備や設営訓練などを行うことをお願いいたします。またできれば他の地域にも設置いただければと思います。能登半島地震ではトイレ問題がクローズアップされました。これには水道の被害に加えて下水道の被害があったからのように思います。下水道が機能しない場合にはマンホールトイレは使えませんが、その場合の対処方法はどのように考えているのでしょうか。仮設トイレが十分に設置でき、汲取り業者との連携ができるならば、マンホールトイレはもともと無用ですので、今回の設計は仮設トイレが十分に用意できないからと想像しています。</p>	<p>マンホールトイレは災害時の切り替え等、管理の行き届く場所でなければ設置が難しい状況ですので限定的な配置となっています。なお、新庁舎は基本設計(案)8ページに記載の緊急排水槽を設置しますので、災害時でも3日間(72時間)は庁舎内のトイレを利用できます。</p>